

○ 委員長報告

12月定例会本会議で報告された環境保健福祉委員長報告は、以下のとおりです。

平成29年12月定例会

環境保健福祉委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、自主防災組織の現状と充実強化についてであります。

このことについて一部の委員から、自主防災組織の現状と活動内容はどうか。

また、自主防災組織のリーダーへの研修等を通じて組織の活性化に努めてほしいがどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県内の自主防災組織は本年10月1日現在で3,033組織、組織率は93.6%であり、平成28年4月1日現在の組織率による比較では全国11位である。

また、活動内容としては、地区防災計画の作成や住民への防災知識の普及啓発、防災訓練、防災資機材の整備などであり、昨年度からは、防災組織のさらなる活性化を図るため、自主防災組織や防災士の代表者等が様々な課題について協議・検討する「愛媛県自主防災組織・防災士連絡調整会」を開催しているほか、今年度から新たに消防学校を地域防災リーダー養成の拠点と位置づけ、専門的な技術や知識を習得する実技面を重視した研修を行うなど、防災士や自主防災組織のリーダーのスキルアップに努めている旨の答弁がありました。

第2点は、障がい者文化芸術活動や障がい者スポーツの振興についてであります。

このことについて一部の委員から、えひめ大会に関連して実施された障がい者文化芸術祭の内容はどうか。

また、県は、障がい者のスポーツ事業や文化事業を今後どう支援していくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、えひめ大会に併せて、障がい者文化芸術祭として、松前町のエミフルMASAKIにおいて障がい者のアート作品の展示や授産製品の販売を実施し、2日間で約1千人の来場があったほか、県総合科学博物

館、歴史文化博物館及び県美術館でもアート展を開催した。

また、障がい者スポーツでは、愛媛県障がい者スポーツ協会を核として、練習環境や指導体制といったえひめ大会のレガシーを活かした支援を行うとともに、文化事業では、障がい者団体や施設と協働する体制づくりを進めていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、医師確保対策についてであります。

このことについて一部の委員から、県は奨学金制度により医師確保に取り組んでいるが、制度の概要、実績及び今後の見通しはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では、「地域医療医師確保奨学金制度」を平成21年度に創設し、入学金や授業料のほか、月額10万円を6年間貸与し、卒業後9年間知事が指定する医療機関に勤務することで返還を免除することとしている。

実績としては、平成29年度までに150名に貸与し、1期生は卒業後3年目で後期臨床研修中、2・3期生は初期臨床研修中である。

今後は最大で年間100名以上を配置することとなるが、義務年限終了後も県内に定着することが重要と考えており、地域医療貢献と専門医資格取得やキャリア形成が両立できるよう配慮している旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ 架空請求にかかる相談
- ・ 総合防災訓練
- ・ おいしい食べきり運動
- ・ 国保の財政運営の都道府県移管
- ・ 介護職員の処遇改善

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願3件については、いずれも願意を満たすことができないとして不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。